

第24回全国青年対策交流集会 感想文

関西での開催が決まってからというもの1年間突っ走ってきた印象です。何をテーマにするか、IRというテーマが決まればセミナーに参加し賛成派も反対派も学習しました。そして、どこで開催するか、スケジュール、却下の案も含めた現地視察、ホテル側との打ち合わせ、資料の作成、そして毎月の代表者会議で進捗状況の確認。青対の準備と日常の業務や組合活動が並行して進む中、関西の代表者と情報を密に共有し準備を重ねました。大会当日まで、上手く開催できるか不安の中、最後はこれだけやってきたのだから大丈夫だという自信と、少しの不安が入り混じる気持ちでした。全てのスケジュールを無事予定通り執り行い、中執の皆様からお褒めの言葉を頂けたときはとても大きい達成感に包まれました。伝えるということはまず知ること。中立の立場で、報道されていることだけではなく現地視察や生の声を聞き、物事の背景まで知らないと正確には知ることが出来ず、伝えることはできないと感じました。今後の活動も意識的に多方面から物事を見て、自分の考えを持てるようにしていきたいと思います。

最後になりますが、この青対を一丸となって成功に導いた関西の仲間、そして全国の仲間との出会いは一生の宝物になると思います。このような機会を与えて頂いた、中執の皆様や、私達の活動にご理解賜りました各関係者の皆様には感謝致します。ありがとうございました。

関西地方 神戸支部 義勇海運分会
青年部部长 井村 一輝